

図書室より「新着図書」のお知らせ

一般書

『ハヤブサ消防団』 池井戸潤

ミステリ作家 VS 連続放火犯 のどかな集落を揺るがす闘い！

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の人の誘いで居酒屋を訪れた太郎は、消防団に勧誘される。

迷った末に入団を決意した太郎だったが、やがてのどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知る。連続放火事件に隠された真実とは？

『浅草ルンタッタ』 劇団ひとり

今は一人ぼっちでも、またみんなの前で歌うんだー。

行き場をなくした女たちが集う浅草の置屋「燕屋」の前に、一人の赤ん坊が捨てられていた。

かつて自らの子を亡くした遊女の千代は、周囲の反対を押し切って育てることを決める。

お雪と名付けられた少女は、燕屋の人々に囲まれながら、明治から大正へ、浅草の賑わいととも成長する。楽しみは芝居小屋に通うこと。歌って、踊って、浅草オペラの真似をして毎日はあんなに賑やかで幸せだったのに、あの男がすっかり台無しにしたー。

『花屋さんが言うことには』 山本幸久

24歳、フラック企業勤務。身も心も疲れ果てていた紀久子が深夜のファミレスで出会ったのは、外島李多と名乗る女性だった。彼女は「河原崎花店」という花屋さんを駅前で営んでいるらしく、酔っぱらった勢いで働くことに。やたらカレー作りがうまい青年や、おしゃべり好きの元教師、全体的に適当な李多。バラエティーに富んだ従業員と色とりどりのお花に囲まれながら、徐々に花屋さんの仕事に慣れていく。

2021年 本屋大賞 翻訳小説部門 第1位！
11/18 公開映画原作

『ザリガニの鳴くところ』 ティーリア・オーエンス

ノースカロライナ州の湿地で男の死体が発見された。人々は「湿地の少女」に疑いの目を向ける。6歳で家族に見捨てられたときから、カイアはたったひとりで生きなければならなかった。読み書きを教えてくれた少年テイトに恋心を抱くが、彼は大学進学のため彼女を置いて去ってゆく。以来、村の人々い「湿地の少女」と呼ばれ蔑まれながらも、彼女は生き物が自然のままに生きる「ザリガニの鳴くところ」へと思いをはせて静かに暮らしていた。

しかしあるとき、村の裕福な青年チェイスが彼女に近づく…

みずみずしい自然に抱かれた少女の人生が不審死事件と交錯するとき、物語は予想を超える結末へー。